vol.1

御勅使川（みだいがわ）ゆかりの史跡を歩く

●コースあんない　石積出～湧暇李の里まで　距離10.6km／時間約3時間

①ふるさと文化伝承館（市埋蔵文化財センター） 1.0km→15分 ②野牛島バス停 バス→20分 ③県道甲斐芦安線（前御勅使川） バス→ ④石積出 1.8km→25分 ⑤水宮神社 0.3km→5分 ⑥矢崎家住宅 1.7km→25分 ⑦徳島堰（桝形堤防） 1.0km→15分 ⑧将棋頭（六科水田） 1.5km→25分 ⑨御勅使南公園 1.2km→20分 ⑩不連続堤 1.0km→15分 ⑪堀切 1.0km→15分 ⑫能蔵池 0.1km→1分 ①ふるさと文化伝承館（市埋蔵文化財センター）

公園散策コース：5.5km→7分 御勅使川福祉公園 1.5km→20分 御勅使南公園西 2.1km→27分

バス　徒歩

⑤水宮神社

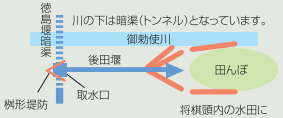
水宮神社は御勅使川扇状地の扇頂部に造られた水波能女命を祭神とする水害防護の神社。大正14年の改修では、有野村水下の村々からも寄付が集められた。

⑥矢崎家住宅

江戸時代前期の建物。甲府盆地西部では最も古い民家で、徳島堰を完成させた矢崎又右衛門のゆかりの家でもある。
矢崎氏は江戸時代を通じ有力農民として有野村の名主を勤めていた。

⑦徳島堰と桝形堤防

韮崎市上円井から曲輪田新田まで全長約17kmにおよぶ灌漑水路。江戸の商人徳島兵左衛門が考案し工事に取りかかり、後に甲府藩から命を受けて有野の矢崎又右衛門が寛文10年(1670)に完成させた。この水路によって扇状地上での水田耕作が進んだ。



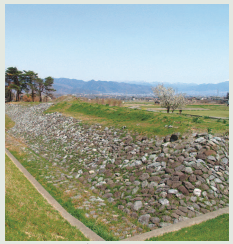
徳島堰から取り入れた水を六科の水田へつなぐのが後田堰。この堰の取水口を小さな将棋頭の形をした桝形堤防が守っています。

御勅使川の本流を高岩の方向（北東）へ向けます。

④石積出

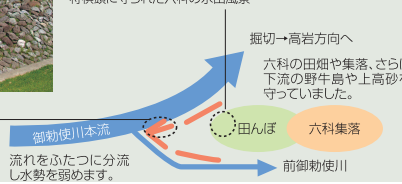
砂礫と石で造られた堤防で、一番堤から五番堤まで残されている。国指定史跡（一～三番）。

⑧将棋頭

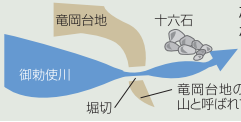


将棋頭に守られた六科の水田風景

将棋の駒の形をした石積みの堤防で、現在は北側の堤防のみ地表に残されている。国指定史跡。



⑪堀　切（切通し）

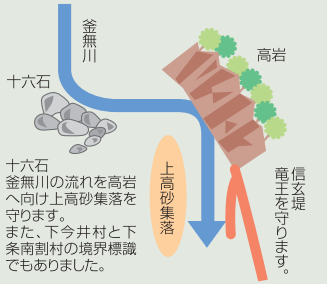
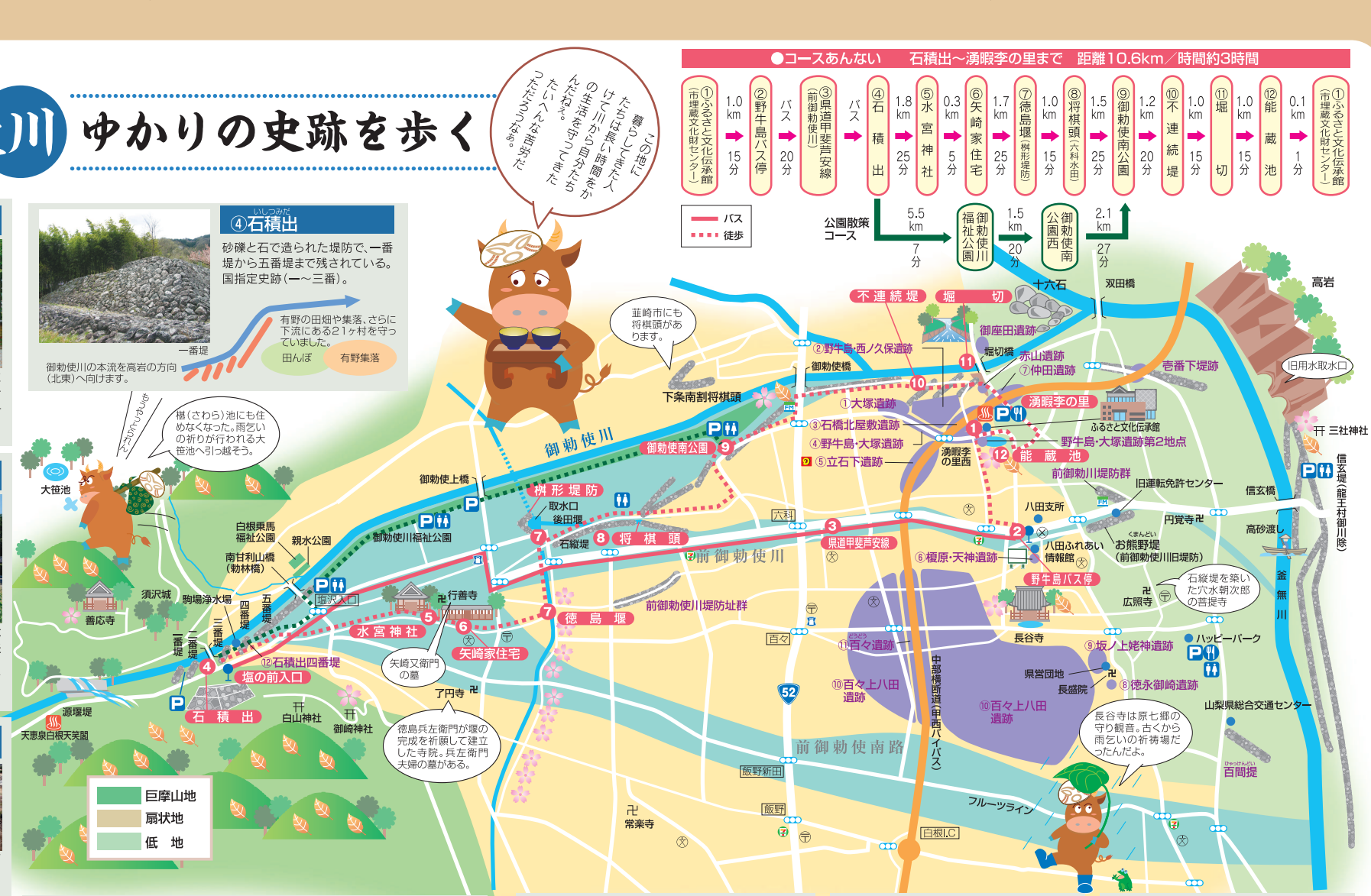


韮崎から続く竜岡台地を信玄が掘り抜いたとの伝承が残る水路。御座田遺跡の調査によって、少なくとも信玄の活躍した時代以前に存在していたことが明らかとなった。

⑫能　蔵　池

湧き出た御勅使川の伏流水をせき止めて造られたため池。池には赤牛の神様が住むといわれ、赤牛が村人に椀や膳を貸してくれる昔話がいまに伝えられている。

十六石・信玄堤



十六石
釜無川の流れを高岩へ向け上高砂集落を守ります。
また、下今井村と下条南割村の境界標識でもありました。